

事業名	姉妹友好交流事業費		
細事業名	外国人留学生相互派遣事業費	財務コード	111004
担当部課室	観光 部 国際交流 課 国際交流 担当 (内線)		4413

事業の概要

実施期間	始期 S59 年度 ~ 終期 年度		
実施主体	県(直営)、補助(姉妹友好地域の留学生)		
事業の目的	だれ(何)を対象に 本県との姉妹友好地域の留学生	その対象をどのような状態にして テーマに基づいた研究と語学の研修を行うとともに、国際交流活動に参加してもらうことにより、今後の国際交流の架け橋となる人材が育成されている	結果、何に結びつけるのか 国際交流活動の促進
	事業の内容 主にH26年度 本県留学生を韓国忠清北道に派遣するとともに、韓国忠清北道とアメリカアイオワ州の留学生を本県に受入れ、語学の修得等を行う。 ・研修目的 両地域の学生等から広く公募を実施し、各々の大学において指導教官の指導のもとテーマに基づいた研究を行い、今後の国際交流の架け橋となる人材を育成する。 ・留学生数...派遣留学生(1人) 受入留学生(2人) ・期間 派遣留学生(1カ年) 受入留学生(1カ年) ・受入機関 派遣留学生(忠清北道忠北大学) 受入留学生(山梨県立大学(2名)) 平成26年度実績		
根拠法令等			

事業の目標、実施状況等(事業実績及び成果の達成状況)

事業の実施状況と目標の実現度	25年度	26年度		27年度	28年度	事業目標の考え方
	実績値	目標値	実績値	見込値	目標値	
活動指標	派遣留学生数	1名	1名	1名	1名	活動指標 目標設定の考え方 実績を参考 データの出典等 過去の実績
	受入留学生数	2名	2名	2名	2名	
	活動指標達成率 (実績値/目標値)	100.0 %				
成果指標	研究報告書の提出	1回	1回	1回	1回	成果指標 目標設定の考え方 研修の終了時に修学内容にかかる研究報告書を提出し、発表会を実施。 データの出典等
	成果指標達成率 (実績値/目標値)	100.0 %				
	決算額又は予算額 (千円) うち一財額	3,035		3,234	3,237	
所要時間(直接分)	222 時間		222 時間	222 時間	222 時間	成果指標によらない成果 派遣留学生については、韓国ソウルで開催された日韓交流おまつりと忠清北道で行われたオソンバイオエキスポに山梨県職員(補助要員)として参加。韓国人客との通訳業務などに従事し、イベント交流を円滑に実現。 受入れ留学生については、日韓文化交流基金主催の「日韓姉妹都市ユースカップ」において、韓国忠州商業高校来県時に通訳補助業務等に従事し交流を円滑に実現。また、国際交流協会で行われるイベント(ワールド・チャリティ・クリスマス等)に講師として参加するなど、地域の国際化に寄与。
所要時間(間接分)	0 時間		0 時間	0 時間	0 時間	
所要時間計	222 時間		222 時間	222 時間	222 時間	
人件費1コト単位:千円 (@2,048円×所要時間)	455		455	455	455	

これまでの事業の見直し・改善状況

--

活動量と成果の判断(平成26年度の業績評価)

(1) 事業は予定された活動量を上げているか (「活動指標の達成率」等から事業の活動量を判断)		
数値判定 H26年度 活動指標 の達成率	活動量に係る 一次評価	活動量に係る一次評価の考え方 数値判定と一次評価が異なる場合等に記載すること
b	b	

a: 予定を超えた活動量がある(120%以上) b: 予定どおりの活動量がある(80%以上120%未満) c: 予定したほど活動量がない(40%以上80%未満)  
d: 予定した活動量に著しく足りない(40%未満)

(2) 事業は意図した成果を上げているか (「成果指標の達成率」、「成果指標によらない成果」から事業の成果を判断)		
数値判定 H26年度 成果指標 の達成率	成果に係る 一次評価	成果に係る一次評価の考え方 必ず記載すること 姉妹関係にある韓国忠清北道、アメリカアイオワ州から例年留学生を受入れ、国際交流協会で行われる国際交流サロンや国際理解講座での通訳補助等に積極的に関わるなど、地域の国際化に寄与している。 また、アイオワ50周年記念事業や忠清北道20周年記念行事などの姉妹友好地域等の国際交流行事の際、通訳補助業務などに従事することにより事業が円滑に実施されている。
b	b	

a: 意図した成果を十分に上げている(120%以上) b: 意図した成果はほぼ上げている(80%以上120%未満) c: 意図した成果は十分ではないが、対象や方法の改善により成果の向上が見込める(40%以上80%未満) d: 意図した成果が十分でなく、成果を上げる方法も見あたらない(40%未満)

見直しの必要性(平成28年度に向けた改善等の考え方)

一次評価(担当部局評価結果)		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目
有	派遣留学生においては帰国後に山梨県内で行われる国際交流事業に参加してもらうことになっているが、現状では帰国2年後以降はなかなか連絡等が取りにくい状態にある。そのため帰国後も長期間に渡って継続的に本県の国際交流事業に協力してもらえるような仕組みを構築していく。 具体的にはこれまでの派遣留学経験者、現役派遣留学生、県とを繋ぐネットワークをSNS等を利用して構築することを目指す。またネットワーク構築後はこれを利用して現地滞在中の留学生のケアを行い、安心した留学生を送る一助とする。さらにこれを募集段階でも周知することによって、応募者の渡航前の不安解消にも役立てる。	b

・「以外の判断項目」の欄  
a: 目的の達成 b: 新たな課題への対応 c: 対象の変化 d: ニーズの変化 e: 法律・制度の改正 f: 民間等実施 g: 市町村等へ移管 h: 外部委託  
i: 経費節減 j: 類似事業と統合・連携 k: 所要時間の縮減 l: プロセスの改善 m: その他

二次評価(担当部局再評価結果) 行政評価アドバイザー会議(外部評価)での指摘事項を踏まえた担当部局による再評価		
見直しの必要性	説 明	以外の判断項目

・「以外の判断項目」の欄は、上記と同様とする

見直しの方向(平成28年度当初予算等での対応状況)

見直しの方向	具体的な実施計画等 「見直しの必要性」と「見直しの方向」が異なる場合は、その理由も記載すること
縮小	県とこれまでの派遣留学経験者、現役派遣留学生とを繋ぐネットワークをSNS等を通じて構築する。また、補助金のうち滞在費(日当)について、他県の状況を踏まえ減額する。

・見直しの方向は、「廃止」「一部廃止」「終期設定」「休止」「他事業と統合」「縮小」「拡大」「実施方法等の変更」「改善済み」の中から選択し、見直しの必要性を踏まえ、具体的な実施計画等を分かりやすく記載すること  
・見直しがない場合は「現行どおり」と記載し、必要に応じてその理由を記載すること